

光コラボレーション事業者による電話勧誘にご注意！

事例 大手電話会社を名乗り、光回線の使用料が安くなると電話勧誘され手続きをしてもらったが、契約先が変更され、別業者との契約になっていた。元に戻すには違約金が必要と言われ納得できない。

トラブル回避のポイント

- ◆簡易な手続きで光サービス（FTTHサービス）の乗り換えが可能となり、変更勧誘トラブルが増えています。
- ◆電気通信サービスは、クーリング・オフ制度がないので注意が必要です。
- ◆大手電話会社の関連事業者だと誤解させる勧誘です。乗り換えが完了するとサービス提供事業者が変わります。契約前に事業者名を確認しましょう。

松太郎 第8回 絵：みざき

※小松市立高校芸術コース美術専攻



小松方言の語源 その39

京都語由来のボコイとワヤク

明けておめでとうございます。今年も引き続き本連載をご愛読ください。

今年も今しばらく、かつての中央語（京都語由来の小松方言をご紹介したいと思います。今回は、「まぬけな」の意味のボコイと「冗談」の意味のワヤクを取り上げます。

ボコイの語源は中央語の「おぼこ、おぼこ」

小松で「まぬけな」の意味で使われるボコイは、かつての京都語で「世間知らずのうぶな子、またはそのようなさま」を表した「おぼこ」が形容詞化した「おぼこい」の語頭の「お」を落した形と考えています。この意味での「おぼこ」は、室町時代の辞書『運

歩色葉集』(1548年)に「小兒ヲボコ、若子同、江戸時代前期の俳諧集『西鶴大矢数』(1681年)に「おぼこ、さうな其君様は時鳥」といった使用例が確認できます。

また、『日本方言大辞典』（小学館）によれば、「世間ないで子供っぽい。無邪気だ。幼稚だ」の意味の方言オボコイが愛知県や近畿地方から四国地方に見え、同様の意味でのボコイが石川県金沢市や岐阜県、滋賀県、大阪市に見えます。一方、小松と同じような「まぬけだ。鈍い」の意味のボコイは、石川県、福井県、滋賀県、香川県などに見え、「おぼこ」から生じた「世間ないで子供っぽい。幼稚だ」といった意味のオボコイが、近畿地方（京都）から北陸などに分布を広げる過程で、ボコイに形を変え、とともに、「まぬけな」の意味を生じたと考えられています。

ワヤクは古語「枉惑」が変化

「冗談」の意味の小松方言ワヤクは、「道に外れた事をして人を惑わすこと」の意味で平安時代の『往生要集』(984～985年)や『今昔物語』(1120年頃)などに用例が見え、「ずうずうしく、ずるいこと」の意味で『日葡辞書』(1603～1604年)に用例が見える「枉惑」に由来すると考えられています。「冗談」という意味との関連を考えると、文献で早く見られる「道に外れた事をして人を惑わすこと」の「人を惑わす」の意味が「冗談」の意味に変化した可能性が高いと思われます。『日本方言大辞典』によれば、「枉惑」から変化した方言ワヤクは、実に多彩な意味に変化しながら全国に分布しています。小松と同じ「冗談」の意味のワヤクは、石川のほか、近畿地方、中国地方、九州地方にも分布します。

歴史の舞台裏

連載 207

加賀国府は小松にあった？

昨年は「国府」と「緑の石」で文化面が賑わいましたが、市史講座でも2023年の加賀立国一二〇〇年に向けて国府について取り上げました。

国府は現在の県庁に当たり、8世紀に律令国家が成立すると、中央から国司が派遣され、この国府で政務を執るようになります。

国府の所在は、発掘調査でまだ立証されていませんが、講師の森田喜久男淑徳大学教授によると、古府町にある石部神社（加賀国惣社府南社という）近くに「館」の小字名があり、10世紀に国司に代わって任国に赴いた受領の居住空間を同じく「館」と呼ぶことから、この一致が重要とし、当地方に国府が存在した一つの証しとしています。

最近、金沢市の戸水C遺跡などから官衙（現在の官庁や役所）と考えられる遺跡が発見され、国府が加賀郡の金沢市域にあったという説が浮上しました。文献史料にも記載がありますが、森田教授は書き間違いの可能性が高いとし、国府が金沢市域にあったとは言い切れないとしています。

一つの見解として、立国直後はまだ加賀国内に国府を置かず、郡家（郡庁）を置かず、郡家など既存の施設を修理活用し、その後、10世紀以降の行政に対応できる新しい国府を能美郡内の小松に建てたと考えます。



▲石部神社

教育庶務課市史編集担当 ☎24・8274